

**広島広域都市圏地域貢献人材育成支援事業
令和4年度補助事業 成果報告書**

大学等名		学校法人安田学園 安田女子大学
教育研究活動	区分	⑥観光資源の共同開発・PR
	テーマ	魅力ある特産品の高付加価値化による経済活性化
連携した市町		広島市（経済観光局産業振興部商業振興課・企画総務局企画調整部広域都市圏推進課） 竹原市（総務企画部産業振興課商工観光振興係） 江田島市（産業部交流観光課商工交流係） 広島県（地域政策局中山間地域振興課）
連携した企業団体等		竹原まちなみ竹工房・竹原市竹工芸振興協会 津島織物製造株式会社 一般社団法人広島湾地域資源ネットワーク（広島ベイネット）
指導教員		安田女子大学 現代ビジネス学部公共経営学科 講師 山田 貴子
参加学生		現代ビジネス学部公共経営学科3年生13人
事業の目的		<p>広島広域都市圏には、若年層を中心とした人口流出を背景に高齢化が加速し、基幹産業である一次産業の衰退や地域の担い手不足など地域コミュニティの存続が危ぶまれる中山間地域が多く存在する。そのなかには熟練した職人による細やかな技術・技法によって手作業で作られ、長く受け継がれてきた伝統産業品が存在するが、ライフスタイルの変化や安価な生活用品の普及による需要の低迷、量産化の難しさ、後継者不足等の理由から縮小傾向にある。こうした閉塞状況から抜け出すためには、歴史・文化・技術面において優れた価値を有する伝統技術を生かしつつ、現代のライフスタイルや志向にあった商品として新たな命を吹き込むことで付加価値を高め、新規市場の開拓を図る必要がある。本事業では伝統産業品がもつ多様な価値を次世代に継承するために新規需要が増えるようなブランディング方法を研究する。</p> <p>①中山間地域において縮小傾向にある特産品を維持・再生することを目的に新規需要が増えるようなPR手法やブランディング方法を研究・実践することで付加価値を高める。</p> <p>②①の魅力地域内外に発信し、生産者と消費者とのつながりを促進することで、地場産業を有する地域だけでなく広域都市圏全体の交流のさらなる活発化を図る。</p> <p>モノ（製品）とヒト（消費者）とをつなぎ、伝統産業品がもつ多様な価値を次世代に継承していくことで地域経済の活性化と広島広域都市圏における交流循環の活発化を図り、それぞれの地域の自然や文化、人々の生活を守りながら共生し、過疎地域を多方面から支援していくことを目的とする。</p>
事業の特色		<p>①工場見学と製作体験 (research & fieldwork)</p> <p>魅力ある特産品（竹細工・紙布）について、事前調査や製造工場見学、伝統産業品を取り巻く気候的風土を含めた現地調査を行うだけでなく、実際に製作体験をすることで経済価値や希少性、模倣困難性といった強みをさらに活かす方策について検討した。</p> <p>②専門家によるマーケティング戦略・製作指導 (lecture & groupwork)</p> <p>特産品に込められた作り手の思いや歴史的・文化的価値などの魅力を発掘し、そこに新</p>

<p>事業の特色</p>	<p>たな物語的价值を付与できるようなPR手法や現代の生活ニーズに適合した商品開発に取り組むにあたって、それぞれの分野の専門家による助言・指導を受けながら活動した。</p> <p>③連携する企業・団体からの支援と評価 (support & feedback)</p> <p>商品開発とPR戦略を進めていく際に、学生たちと連携する事業者の思いに溝が生じないように、こまめに情報を共有しながら活動を進め、学生たちが気軽に質問できる環境をつくった。また、中間報告会と最終成果報告会を開催し、連携・協力する事業者が対面・オンラインのいずれかで参加できるよう、ハイブリッドによる意見交換の場を設定した。</p> <p>④活動に主体的に取り組むための振り返りと記録 (reflection & portfolio)</p> <p>13人を3つのチームに分け、それぞれに役割（リーダー、マネージャー、アナリスト、ブレーン）を与えることで責任を明確にし、主体的に参加できる基盤をつくった。また、毎回の活動の振り返りと今後やるべきことを明確にするため、各自でポートフォリオを作成させ、活動のプロセスを可視化させた。</p>
<p>実施状況</p>	<p>①工場見学と製作体験 (research & fieldwork)</p> <p>「竹原まちなみ竹工房」の見学と竹細工の製作体験 (学生12人・引率教員3人：熟練した職人5人の指導を受けて実施)</p> <p>竹工芸振興協会会長の講話とインタビュー調査、竹原町並み保存地区での現地調査を実施。竹割・竹ひごづくりから始め、竹工房の目玉商品のひとつである「二連風車」を製作した。製作過程の中で、指導していただいた竹工房・振興協会会員の方々と交流を深め、竹細工にかける作り手の想いや歴史的・文化的価値などの魅力発掘に関する聞き取りをした。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="427 1173 903 1532">  </div> <div data-bbox="983 1173 1458 1532">  </div> </div> <p style="text-align: center;">町並み保存地区での有田会長の講話</p> <p style="text-align: center;">港町工房での竹細工製作体験</p> <p>竹細工を取り巻く風土や環境（町並み保存地区）を含めた現地調査から見てきたことをもとに、マーケティングミックス4P分析やVRIO分析等フレームワークを用いた市場分析を通して、竹細工がもつ経済価値や希少性、模倣困難性といった強みをさらに活かす方策について検討した。その際、伝統的工芸品（経産省）として国が指定している「別府竹細工」「駿河竹千筋細工」「高山茶筌」「勝山竹細工」との比較分析をおこなった。</p> <p>「津島織物製造株式会社」の工場見学と紙布端材を用いた雑貨製作体験 (学生13人・引率教員3人：社長および職員計4人の指導を受けて実施)</p> <p>午前には工場見学および津島久人社長の講話から紙布の歴史と特性、その製造工程について学び、午後は紙布端材を用いたバッグを製作した。製作過程の中で、職員の方々と交流を深め、国内では2社のみとなった紙布づくりにかける作り手の想いや歴史的価値、今後の展望など魅力発掘に関する聞き取りをした。</p>

実施状況



工場での津島社長の講話



紙布バッグの製作体験

紙布を取り巻く環境や気候的風土を含めた現地調査から見てきたことをもとに、4P分析やVRIO分析等フレームワークを用いた市場分析を通して、紙布がもつ経済価値や希少性に加え、機能性および意匠性、模倣困難性といった多くの強みを生かす方策について検討した。その際、すでに商品開発・販売が進められている「広島ベイネット」とのコラボ商品（紙布バッグやジュエリートレイ、小物雑貨など）や「HIROSHIMA SHIFU」とコラボした高級バッグなどを比較検討することで、現代の生活をより豊かにできるような商品開発と新たな物語的価値を付与できるようなPR手法の考察を深めた。

②専門家によるマーケティング戦略・製作指導 (lecture & groupwork)

数々の企業ブランド再生業務の経験を持ち、広島県コミュニケーション・マーケティング総括監（7年間）として広島県のブランド力向上を牽引し、現在は江田島市地方創生参与として観光コンテンツ開発や関係人口拡大に貢献している上迫氏による特別講義「マーケティング発想のイノベーションとは？」を実施した。

イノベーションを生み出す4つの視点として、①心理的安全性の確保、②Not, ButではなくYes, Andが原則、③複数の要素を掛け合わせることで新しい価値を生み出す、④「誰に」×「何を」×「どのように」を明確にしたうえでコンセプトを具現化していくことなどを学んだ。



また、試作品づくりでは、竹工芸作家である寺本光希氏、広島ベイネット工場の胡子和子氏を含む5名を講師に迎え、日々の活動内容と今後のビジョンなどをお聞きすることを通して、竹細工および紙布の強みや可能性、扱い方のコツ等を学び、学生チームで考案した商品の試作品づくりに直接アドバイスを頂いた。



竹の指輪づくり



ハトメ体験



万華鏡の紙筒製作

③連携する企業・団体からの支援と評価 (support & feedback)

◆◇中間報告会 (presentation) ◇◆

【内容】3つのチーム（竹細工チーム4人・紙布チーム4人・MIXチーム5人）による企画提案の発表と質疑応答

【助言】広島市・竹原市・江田島市・広島県の連携部署担当者およびマーケティングの専門家、株式会社たびまちゲート広島地域事業部など10名



●「竹細工チーム」は、竹細工の課題として「洋のイメージが弱い」「話題性が不足している」の2点を挙げ、アフタヌーンティー、デスクオーガナイザー、アドベントカレンダーなど複数の商品開発案を提案した。しかし、対象を子どもから高齢者までと幅広く設定したためコンセプトがぼやけてしまい、もっと対象を絞り込み、解像度を上げていく必要があるとの助言を受けた。

●「紙布チーム」は、「吸湿性」「高級感」「温かみ」を紙布の強みとしたうえで、撮影用和傘、スリーブ、ご祝儀袋、アクセサリなどの商品を提案した。素材の強みを生かした商品であること、学生ならではのアイデア発想にもとづいた現代志向の商品である点で高い評価を得た。今後は商品化するものを絞り、コンセプトに「江田島らしさ」をどう加えていくかが課題として示された。

●「MIXチーム」は、竹細工と紙布の2つの素材を掛け合わせて商品開発をするチームである。強みの共通点を「環境にやさしいこと、通気性、吸湿性、耐久性、強度があること」の5点とし、これらの要素を活かした商品として「製作体験キット、ランプシェード、腕時計」の3つを提案した。誰に、何を（モノ・コト）、どのように（場面）提供していくかというコンセプトをもっと絞り込むようアドバイスを受けた。

◆◇最終成果報告会 (presentation) ◇◆

【内容】3つのチーム（竹細工チーム4人・紙布チーム4人・MIXチーム5人）による最終企画提案の発表と講評

【助言】広島市・竹原市・江田島市・広島県の連携部署担当者およびマーケティングの専門家、竹工房、津島織物製造株式会社、広島ベイネット、近畿日本ツーリスト株式会社広島支店、江田島荘、株式会社たびまちゲート広島地域事業部など24名

●竹細工チーム

「竹細工製作体験&アフタヌーンティーをセットにしたオプショナルツアー」

アンケート結果をもとにスイーツ巡りが好きな母娘をターゲットに絞り、竹原の和洋スイーツが一度に楽しめる「かぐや姫体験アフタヌーンティー」と「竹細工体験」をセットにしたツアーを考案した。竹で精巧に創られたケーキスタンドを用いることで他にはない特別感が感じられるようハイクラスホテルでの提供とし、たけはら町並み保存地区の魅力を「体験と食」で存分に味わえるツアーとした。

●紙布チーム

「江田島発！ライトエコ×オシャレ×社会現象を目指した紙布スリーブの提案」

使い捨てスリーブが多いという課題を解決するため、吸湿性に優れ、高級感のある紙布を用いた繰り返し使えるスリーブを考案。ライトエコユーザーを対象に、環境に配慮し、見た目もオシャレな紙布スリーブを市内のカフェ等で気軽にレンタル・購入できるようにするなど、アンケート結果をもとに4つのシーンに分けたPR戦略を提案した。

趣旨に賛同してくれる企業を募り、社会的価値を付与することで江田島市のさらなる活性化を見込むことをゴールとした。

実施状況

●MIX チーム

「万華鏡（紙布・竹筒 ver.） 体験キットによるインバウンド観光の活性化」

広島県内ではアウトドアのアクティビティが多く、ものづくり体験ができるバリエーションが少ないという課題から、主に外国人観光客を対象とした「万華鏡キット」を紙布と竹筒の2バージョンで開発した。キットにすることで体験場所が限定されることなく滞在先のホテル等で日本の伝統を感じられ、お土産としてプレゼントすることもできる。子どもから高齢者まで全世代が気軽に伝統に触れることができ、オブジェクトや万華鏡の中に入れるパーツの揃え方次第で、その土地らしさや環境教育にも繋げられるという発展性も提起した。

活動の成果

④活動に主体的に取り組むための振り返りと記録 (reflection & portfolio)

最終成果発表会を終え、学生には下記の5項目について5段階で自己評価をさせた。加えて「自分たちのチームの発表を終えた感想と気づき」「他チームの発表を聴いた感想と気づき」「演習全体を通して成長を実感できたところ、今後の課題」の3項目について自由記述で回答させた。表1は中間報告会後に同様の項目で自己評価をさせたものと最終成果報告会との平均値の比較結果である。(有効回答数13名)

表1 参加学生の中間・最終時の振り返り結果の平均値

評価項目	N	中間(平均値)	最終(平均値)
①話し合いへの積極性	13	4.15	4.00
②メンバーとの協調性	13	4.46	4.54
③チームへの貢献度	13	3.62	3.69
④自分の役割の遂行力	13	3.08	3.77
⑤プレゼン発表の提案性	13	3.46	3.85

中間報告時と比較すると、「④自分の役割の遂行力」「⑤プレゼン発表の提案性」の2項目で評価が上がっていた。グループワークの回数を積み重ねることで役割意識が高まり、プレゼン発表への自信がついてきたことが伺える。

また、最終成果報告会に出席いただいた自治体職員・事業者の方々に、それぞれ下記の5項目について5段階で評価をしてもらい、講評コメントをフィードバックしてもらった。表2は各チームの発表に対する外部評価の平均値である。(有効回答数11名)

表2 それぞれのチームに対する外部評価の平均値

評価項目	N	竹細工チーム (平均値)	紙布チーム (平均値)	MIXチーム (平均値)
①プレゼンの構成・資料	11	4.73	4.55	4.64
②情報収集・課題分析力	11	4.27	4.45	4.55
③新規提案性・オリジナリティ	11	4.73	4.91	4.73
④実現可能性・展開の見通し	11	4.27	3.91	4.73
⑤プレゼンスキル・質疑応答	11	4.27	4.55	4.64

活動の成果
および
今後の活動

◆◇広島広域都市圏協議会での活動成果発表 (presentation) ◇◆

3チームの代表として紙布チームが選出された。学内で開催した最終成果発表会での助言をもとに修正を加え、「紙布スリーブ」4種の試作品とPR戦略案を発表した。

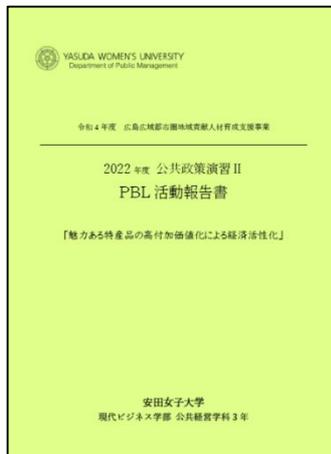
発表後、江田島市長から、「江田島市が誇る伝統ある紙布を広くPRしてくれたことが嬉しい。是非、G7サミットを機会に紹介を」というご提案をいただき、**継続事業**として、まずは5/19-21に広島で開催されるG7サミットで「紙布」の歴史と特徴を紹介するとともに、学生考案の紙布スリーブをPRする準備を進めていくことで、引き続き江田島市の活性化に貢献する活動を展開する予定である。



また、竹細工チーム考案の「竹細工製作体験&アフタヌーンティーをセットにしたオプションツアー」とMIXチーム考案の「万華鏡体験キットによるインバウンド観光の活性化」の2案についても、引き続き次年度以降も連携する事業者とともに活動を展開する予定である。

【PR活動】

地域社会とのさらなるコミュニケーション強化を図るため、本事業における活動実績をまとめた最終成果報告書を作成し、連携・協力いただいた団体、関係者に配布した。また、活動の成果を大学HPや関係団体のWebサイト、活動に参加した学生のSNS等で積極的に情報発信をし、該当地域を応援してくれる新たなファンの獲得を図った。



2022年度 PBL 活動報告書



「竹と紙布で新商品提案」
中国新聞セレクト10面特集
(2023年3月3日掲載)



学生製作の「紙布スリーブ」と
「万華鏡キット」

【期待される成果の検証】

- ①若者の視点から中山間地域が有する伝統産業や地域特性の魅力を発信することで、生産者と消費者の新たなつながりを創出し、地域の活性化に寄与できる。
➡竹原市の竹細工、江田島市の紙布に関する情報を積極的に発信できた。
- ②本事業を通して、中山間地域と安田女子大学との新たな関係が構築され、広島広域都市圏全体にモノ・コト・ヒトの交流が活発になるような広い視野で課題解決に取り組もうとする意識の醸成が期待できる。
➡学生のポートフォリオ・最終レポートより、概ね達成できた。
- ③中山間地域の魅力を再発見することで、より一層広島地域への愛着と誇りを深め、大学卒業後も継続的に多様な形で関わりを持ち続けていこうとする関係人口の拡大に貢献できる人材を育成できる。
➡今後も活動を継続することで地域貢献人材育成に尽力する。